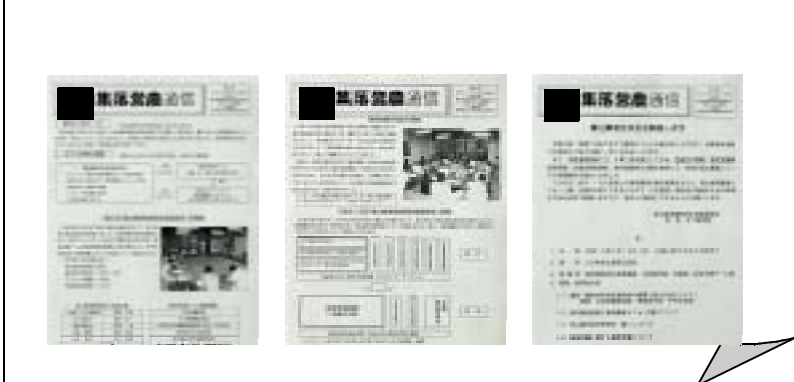


重点取組名	地域農業を担うモデル経営体の育成
普及活動担当	山形県庄内総合支庁 産業経済部農業技術普及課
主要な活動地域・対象農業者	山形県X集落 X集落機能強化推進委員会
取組結果・成果 <取組みのねらい>	<p>活動の経過</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成17年度「X集落機能強化推進委員会準備会」を数回開催し、集落機能強化推進委員会の発足を働きかけた。平成17年8月に発足。その後、集落機能強化推進委員会の事務局として7回の委員会開催、集落営農通信5回発行、集落営農研修会開催等を支援した。 委員を中心に岩手県・宮城県の先進地研修、集落全戸を対象としたアンケートによる意向調査・集約を行い、集落内の農地利用については農用地利用改善団体を設立することや中核的農家を中心とした特定農業団体設立へ向けて集落内の合意形成を図られるよう支援した。 委員会は、平成18年2月集落農業ビジョンを取りまとめ、集落全体で説明会を開催。普及課は、助言・資料提供・説明サポートを行った。 町、農業委員会、農協、土地改良区、総合支庁関係課からなるX集落総合支援チーム会議を開催し、役割分担しながら、X集落機能強化推進委員会の活動を関係機関と連携しながら支援した。 集落担い手組織に対し、大豆・えだまめ栽培の技術指導を実施した。 <p>活動の成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 新たな集落経営体設立を目指す中核的農家5名に地区の生産組合役員を加えた「X集落機能強化推進委員会」が7月に発足した。当委員会では集落ビジョンの策定・実践計画の作成を行い、集落内の農地利用については農用地利用改善団体の設立を図ることや中核的農家を中心とした特定農業団体設立へ向けて集落内の合意形成が図られた。その結果、平成18年2月集落農業ビジョンが策定された。 気象変動に対応した適切な栽培管理により、大豆240kg/10a、えだまめ372kg/10aとそれぞれ目標単収を達成した。
連携機関、協議会等	山形県農業担い手支援センター、同庄内地域部会
取組の特徴や取組に際しての工夫	<p>・「X集落機能強化推進委員会」の活動内容を集落全戸の理解を得るために、下記のような「X集落営農通信」を発行した。内容は、委員会での検討内容、アンケート調査結果報告、研修会内容、先進地研修内容等である。</p> <div data-bbox="405 1541 1203 1921" style="border: 1px solid black; padding: 10px;">  </div>
【参考】	<p>平成18年度の活動成果目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織経営体の設立（農用地利用改善団体：8月、特定農業法人：1月） 大豆、えだまめの生産安定（大豆270kg/10a、えだまめ320kg/10a）